

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 27 No 2

306号

平成31年 2月10日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

インフルエンザ雑感 -2019-

院長

今シーズンインフルエンザが大流行して、第4週(1月21～27日)のインフルエンザ発生状況(厚労省)では1週間の患者数が222万人となり過去最多となりました。インフルエンザ流行状況に関しては、毎週クリニック Facebook ページで発信しているので参考に。今月号では、毎年恒例になったインフルエンザを辛口で書いてみます。

今シーズン大流行は、2009年に新型として流行したA型のH1N1(AH1)とA香港型(AH3)が同時に半々に流行していることが理由とされています。しかしながらなぜ2つの型が同時に流行しているか、さらには変異などの別の問題があるのかなど詳しいことはわかっていません。

最初にインフルエンザ診療の苦労話を書きます。当院ではインフルエンザの流行が始まってくると、インフルエンザが疑われる患者さんは隔離室で診療します。疑われる根拠は家族や集団生活の場でのインフルエンザの存在。急激な発熱での発症で、頭痛、倦怠感、節々の痛みなどを伴う場合です。隔離をする理由は、医療機関内で感染を拡大させることを防ぐためです。カゼで医療機関を受診して、帰りにインフルエンザを持ち帰ってしまうなんて笑い話にもなりません。感染症に注意を払っている医療機関では、隔離ということにしっかり対応しています。まさかお父さんやお母さんが通っている医療機関は、インフルエンザも他の病気も一緒ではないでしょうか。苦労話はこれからですが、インフルエンザの流行が拡大してくると隔離できる場所は3ヶ所しかないの追いつきません。そんな時は「逆隔離」という方法をとります。つまりインフルエンザの可能性が高い患者さんを通常の待合室で、それ以外を隔離室で診察するのです。もちろん薬局でも感染を防がなければ、元も子もありません。クリニックの感染対策だけでなく、薬局とも連携をとって対応していることを理解してください。これが小児科医が感染症の専門家である証なのです。くれぐれもごちゃ混ぜの待合室には注意してください。

次は家庭内感染です。毎年こんなケースがあって、嘘でしょうと思うことがあります。当然のことながらインフルエンザは外から家庭に入ってきます。家族の中でインフルエンザが一人確定されれば、感染対策を講じていても家族感染を防ぐことはなかなか難しいことです。感染は接触者との距離と時間が関係し、距離が近く、時間が長ければ長いほど感染のリスクは高くなるのです。社会より集団生活、集団生活より家族と

ということになり、一般には父子より母子の方が感染する率は高くなります。家族の中で感染者が確定され、1～3日の間に38℃以上の発熱があれば、インフルエンザである確率は90%以上と考えています。つまりそのような状況では、2人目以降は検査をする必要はないのです。ご親切な医療機関では、家族全員を検査してくれることもあるようです。そして検査までの時間が短く陰性でも、親切な医療機関では抗インフルエンザ薬まで出してくれるのです。なんてありがたいことなのでしょう。優しさの裏には痛い思いをさせてまで検査料で儲けるのとの思いが頭をよぎります。ちなみに当院では、検査診断と臨床診断(検査なし)が半々で、半分の子どもたちは笑顔で帰っているのです。

これも毎年繰り返しのようになりますが、検査偏重主義による混乱です。小児科医としては理解できませんが、30人クラスで10人休んでいても学級閉鎖にならないなんてことがあります。その理由はインフルエンザが5人で、カゼが5人という理由です。でも、ここで学級閉鎖の意味を考えてみましょう。なぜ学級閉鎖をするかわかりますか。もちろん感染症の蔓延を防ぐことですが、もう一つは罹患していない子どもを守るという意義も大きいのです。インフルエンザかどうかは別にしても、集団カゼが発生していることは事実です。子どもたちを守りたいなら、6人休んだなら学級閉鎖にすべきなのです。10人だった子どもが、翌日には20人欠席などということも珍しくはありません。自分が校医をしている小学校では、校長の理解もあり早めに学級閉鎖をして子どもたちを守るようにしています。

インフルエンザの治療薬についてちょっとだけ。パロキサビルマルボキシル(ゾフルーザ®)が発売され、画期的な薬としてマスコミでも大きく取り上げられました。テレビで医師が勧めていた場面を何度か見ました。しかし感染症の専門家の多くは使用に積極的ではありません。自分も発売前から耐性ウイルスの問題を知っていたので、当院で処方したのは1例だけでした。それも発達障害があり吸入が不可能、複数回服用する抗インフルエンザ薬も飲めない子に止むを得ず処方したのでした。素晴らしい素晴らしいとテレビで勧めていた医師、さらに全員に投薬していた医師たちは、今頃どう思っているのでしょうか。

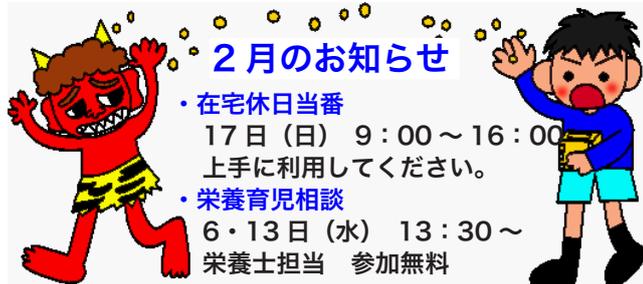
インフルエンザを侮ってはいけませんが、必ずしも重症の経過を辿るものではありません。ですから、症状の重さに注意しながら、慌てずに検査の陽性率が高くなる時期(発熱後6時間)を待ち受診しましょう。検査は苦痛をとまなうので、集団カゼの認識を持って臨床診断だけで充分であることを理解しましょう。

豊橋市育児情報誌「ママゴン：インフルエンザについて」(2019年1月号)も右のQRコードから読んでみて下さい。



2月のお知らせ

- ・在宅休日当番
17日(日) 9:00～16:00
上手に利用してください。
- ・栄養育児相談
6・13日(水) 13:30～
栄養士担当 参加無料



読者の広場

先月は6通のメールをいただきました。先月号はクリスマス会の感想でいっぱいになってしまったので、12月にいただいたメールも含めて紹介します。



青葉区の吉〇さんからのメールです。「かわむら先生！今年、最後の診察日にお伺いしました、吉〇〇の母です。いつもお世話になっております。29日はどうもありがとうございました。あの後、先生の所から直接仙台医療センターに向かいました。今日で、まだ入院2日目なのにとても長い時間過ごしたような感じです。まだ2日しか経ってないなんて…変な感じです。ずっと熱が下がらず、もう不穏な気持ちでいっぱい、また先生の前で号泣。それでまた先生が笑顔で迷惑かけたなんて言うんじゃないよ！大丈夫！お母さん！なんて、優しい言葉をかけてくださるから、ますます張り詰めてたのが切れて涙が出てしまいました。めぞめぞ泣き虫吉〇です。今朝から川崎病の症状が出揃ったという説明を受けまして、川崎病と診断されました。ビックリしましたが、前向きにメソメソしないで、一〇も頑張っているのだから、母親しつかりしようと思います。まだ高熱が続いています。早く下がって退院できるといいです。熱で苦しんでいる子供を見ると、また涙が出そうになります…子供の見えないところで泣かなくては…と踏ん張っています…。退院したら、先生のとこに元気な顔を見せに行きます皆様、どうもありがとうございました。行ってらっしゃい！大丈夫！と、送り出して頂いても勇気付けられました。どうもありがとうございました。」

子どもの具合が悪いと必要以上の不安を持つのが母親なのです。その不安・心配をどのように解消するかも、小児科医の役割です。入院もそうですが、年末の休みで、さらに不安・心配が強くなるのは防がなければなりません。その思いが伝われば、少しは母親の気持ちも軽くあります。それを証明してくれる、素晴らしいメールです。ありがとう。

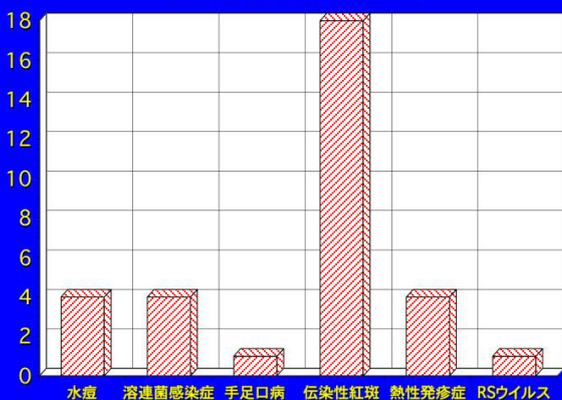
次は大和町の吉田さんから、ご主人のインフルエンザ罹患のエピソードです。「あけましておめでとうございます m()m 今年も家族そろってよろしくお願ひいたします。先生、聞いてください。我が家、今週頭に旦那が最先端でインフルエンザAにかかりました、(。` ;13日(日)発熱 夜39,2℃ 14日(月)38℃で休日当番へ…スゴい人で、6時間かかりましたΣ(。`□`)そしてインフルエンザの診断。15日(火)36,6℃熱下がって4日がたち、暇してる旦那でした！とりあえず落ち着きましたが、とにかく病院が大変でした。仙台市だと病院が多いから、休日当番もある程度やってるのかもしれない。でも、ちょっと北では、富谷市と大和町合わせてやってるのは小児科1件だけでした。この日は大人も子どももいっぱい来ていて、午前の受付分の患者さんが終わらずに、午後の受付も始まっていたので、職員の方達はきつとびっ通し…子ども達が優先のようでしたが、それでも待ってる間の子どもたちかわいそうでした。大人もどんどん増えるから、イライラも伝わり負のオーラ充満…って感じてました！待ってるだけで病気になる(。`□` |||)もちろん、お医者さんやスタッフさんの休日の確保は大事です。だけど、あれではみんながツラそうでした。病院が少ないのかもしれないけど、せめてもう1件内科が小児科はやってほしいですよね。先生に診てもらいたかった…と何度も思いました。とはいえ、かわむらクリニックの皆さんも大変な思いはしてほしくないで、インフルエンザが早く落ち着いてほしいです(;_;)今のところ、娘たちも私も元気ですが、ドキドキしながら手洗いうがい頑張ってます！忙しい時期、先生達もお体大事になさってください！そして、きつとそのうちお世話になります(笑) ☆長々とすみません。週末なので、先生達も大変だろうなと思い、メールしちゃいました。お疲れさまです！」

このようなエピソードを報告してくれる患者さんとの関係が嬉しいですね。報告したから解決するものではないのに。それに加えて当院のスタッフまで気にしてもらえてるなんて、嬉しい限りです。

次は群馬県に転居した伊波さんからメールです。「こんばんは。お久しぶりです(^_^)以前仙台に住んでおり川村先生に大変お世話になりました！群馬県に引越した井波柚子和楓月の母です。今日は息子のインフルエンザについてご相談です。昨日の夕方から急な39度の高熱がになり朝になっても下らない為病院へ、結果はすぐ出て初めてのインフルエンザのA型でした。タミフルと解熱剤を処方して頂きました。今になってはずっと熱は39度代のままで2歳の息子は目は虚ろで朦朧としています。解熱剤を使ってあげるべきなのか？インフルエンザ脳症などにならないか？どうしてあげるべきなのか？など不穏になってしまいました。川村先生からの安心が欲しくご連絡してしまいました。」

心配ないと返信した後のメールです。「おはようございます。お忙しい中お返事頂きありがとうございます！夜中に何度か嘔吐がありました。今朝になりだいぶ落ち着いてきた様に感じます。処方された物もアセトアミノフェンでした！先生から言ってもらえるとやっぱり落ち着いて安心出来ました。もう少し様子を見えます！お忙しい中いつも丁寧に教えて頂き感謝いたします、ありがとうございます！」。ほんと、今回は嬉しいメールばかりでした。ありがとうございました。

1月の感染症の集計



インフルエンザが、今までない大きな流行になっています。昨年の1月は158人で大流行と書きましたが、今年はなんと243人でした。しかしながら下旬からは頭打ちになり、減少傾向です。インフルエンザの流行情報に関しては、毎週全国と仙台市の情報を提供しています。右のF.B. ページで確認して下さい。例年インフルエンザが流行すると、他の感染症が目立たなくなります。伝染性紅斑が多いのが特徴ですが、今年も同じような状況です。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は600人を越えるお母さんが登録し利用しています。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。下のQRコードから是非登録をお願いします。

その他の情報発信として Facebook ページ、YouTube にも取り組んでいます。最新情報はFBをどうぞ。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Facebook

編集後記

インフルエンザの大流行を受け、先日河北新報に、かなり大きく掲載されました。当院では痛みを伴う検査をしたくないので、その分説明に時間がかかります。有無を言わず、鼻に突っ込んでグリグリする方が楽ですが、泣き騒ぐ姿や次の受診時に鼻を抑える仕草を見ると可哀想になります。他人事のように検査して下さいという親を見ていると誰のためなのかと、子どもの未来が心配になります。本当に疲れます。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』 『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！